第 61 回全国広報広聴研究大会

魅力ある地域資源をいかして
～四季の美しさと人の温かさを感じられるまち横手から

新型コロナウイルス感染症の影響による人々の意識や行動の変化に伴い、観光を取り巻く状況は大きく様変わりしました。

豊かな自然に抱かれながら、再生可能エネルギー源などの豊富な資源や質の高い文化、伝統が共存する秋田県では、「何度でも訪れたくなるあきたの創出」を掲げ、訪れる人のこころと地域を潤す秋田ならではの持続可能な観光を目指しています。

これからは、地域への誇りや愛着を持ちながら、時代の流れや価値観等の変化に柔軟に対応し、訪れる人々の満足感を高めることができるような観光地域づくりを進めることが求められます。自治体が持つ、有形・無形の地域資源の魅力を発掘し、積極的に発信することで、地域活性化と多くの人を呼び込む方法を考えます。

このほか、能登半島地震発生を受けて、急きょ、災害時における自治体の情報発信をテーマに特別講演を行います。

■プログラム　2024 年 6 月 21 日（金）

10:00 ～ 10:45	日本広報協会定期総会
10:30 ～ 11:15	大会受付
11:15 ～ 12:15	開会式、表彰式 挨拶　日本広報協会会長 秋田県 横手市 祝辞　内閣府 総務省 全国広報コンクール表彰 内閣総理大臣賞 総務大臣賞 日本広報協会会長賞 読売新聞社賞 BS よしもと賞
12:20 ～ 12:50	特別講演 災害発生時における自治体の情報発信 髙島　哲夫 元国立研究開発法人防災科学技術研究所審議役
13:45 ～ 14:30	講演 産学官連携醸造酒「宵の星々」のプロモーションによる地域活性化の取り組み 益満　環 秋田大学教育文化学部地域文化学科准教授
14:40 ～ 15:00	事例発表 1 歴史・文化・マンガをいかしたまちづくり 秋田県横手市
15:05 ～ 15:25	事例発表 2 明智光秀を資産に様々な企画を展開 京都府福知山市
15:25 ～ 15:35	閉会式

主催	公益社団法人日本広報協会、秋田県、横手市
後援	内閣府、総務省
協賛	全国知事会、全国市長会、全国町村会、日本新聞協会、NHK、秋田県市長会、秋田県町村会
開催日	2024 年 6 月 21 日（金）
総会・大会会場	秋田ふるさと村　ドーム劇場（秋田県横手市赤坂字富ケ沢 62-46） ※当日は、送迎バスを用意する予定です（秋田空港・大曲駅・横手駅からふるさと村まで、また帰りはふるさと村から横手駅まで）。詳細は、参加証を発送する際にご案内します。
募集人数	200 人
参加費	会員　7,370 円（税込み）　　会員外　12,100 円（税込み）
支払い方法	参加証・請求書を受け取った後、大会当日までに指定口座にお振り込みください。
問い合わせ・申し込み先	申し込み書に必要事項をご記入の上、ファクシミリでお申し込みください。 公益社団法人日本広報協会・事業部　電話：03-5367-1702　ファクシミリ：03-5367-1706 申し込み書は、当協会ウェブサイトからもダウンロードできます。▶ https://www.koho.or.jp/

12:20 ～ 12:50

特別講演

災害発生時における自治体の情報発信

髙島　哲夫　元国立研究開発法人防災科学技術研究所審議役

2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震は記憶に新しいところですが、日本は、南海トラフ地震・津波、首都直下地震そして火山噴火など、さまざまな自然災害が、いつ発生してもおかしくはありません。過去の災害が残した課題や教訓を生かし、防災力の一層のレベルアップはもとより、災害発生時にどのように対応するのが適切なのか、普段からの意識が重要です。

新潟県中越沖地震や東日本大震災など災害時の対策本部の広報体験をもとに、災害発生時に自治体広報担当者はステークホルダーに向けて、どのような情報を迅速に発信していけばいいかをお話しします。

■プロフィル：たかしま　てつお
元国立研究開発法人防災科学技術研究所審議役

1956 年生まれ。㈱博報堂で PR 関連業務に従事。2005 年公募に応じ新潟県広報監。その後内閣官房長官秘書官、内閣審議官（内閣広報担当）などを経て再度新潟県広報監。退職後、防災科研に入所。新潟県時代に新潟県中越沖地震を、官邸時代に東日本大震災などの災害時広報を体験。防災科研では防災科学技術に関する広報を担当。内閣府が国や自治体職員を対象に行う「防災スペシャリスト養成研修」の講師。他に国連 UNHCR 協会理事、日本国際ボランティアセンター理事等を歴任。

13:45 ～ 14:30

講演

産学官連携醸造酒「宵の星々」のプロモーションによる地域活性化の取り組み

益満　環　秋田大学教育文化学部地域文化学科准教授

新型コロナウイルスの感染拡大により、日本酒の売り上げは大幅に減少。そのような状況で始動したのが大仙市の五つの酒蔵による“統一ラベル”プロジェクトです。秋田大学益満ゼミの大学生が、その魅力を発信。インスタグラムやラジオ、広報紙を使って、大仙市の酒蔵の PR 活動を行いました。学生は、2021 年 4 月からは日本酒造りにも参加。2022 年 2 月、ついに大仙市の酒蔵・秋田大学の学生・大仙市役所がタッグを組んだ日本酒が完成しました。

産学官連携のもと、学生たちによるオリジナルの日本酒づくりとその魅力発信の取り組みをお話しします。

■プロフィル：ますみつ　たまき
秋田大学教育文化学部地域文化学科准教授

1974 年、秋田県大仙市生まれ。東北大学大学院経済学研究科博士課程後期 3 年の課程（経営学専攻）修了後、富士大学、石巻専修大学、米国テキサス大学ダラス校での教員生活を経て、2019 年 4 月から現職。博士（経営学）。学生が横手やきそば暖簾 (のれん) 会と共同で、「横手やきそばが美味 (おい) しい理由（ワケ）」と題して、横手やきそばの歴史や特徴、創始者の郷土愛を受け継ぐ 9 名の匠 (たくみ) たちを Instagram 上で発信する取り組み（東北地域ブランド総選挙最優秀賞受賞）など、地域活性化のためのプロモーションを仕掛ける。

14:40 ～ 15:00

事例発表 1

歴史・文化・マンガをいかしたまちづくり

秋田県横手市

世界に誇ることができる日本の「マンガ文化」。その原画は、マンガが印刷されると不要になり、漫画家が原画を保存するしかありませんでした。ものによっては海外に美術品として流出してしまうことも。横手市増田まんが美術館は、2010 年代から、マンガ原画の収蔵と、そのアーカイブ化の事業に本格的に取り組んでいます。また、原画の劣化と散逸を防ぎ、適正な保管や出版に供することも可能なデジタル化なども行っています。マンガの原画の収蔵数日本一を誇る横手市増田まんが美術館には、全国各地から多くのマンガファンが訪れます。国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された増田の町並みと連携して、一体的な文化観光拠点として相乗効果を図ることを目的とした歴史・文化・マンガをいかしたまちづくりの取り組みについてお話しします。

15:05 ～ 15:25

事例発表 2

明智光秀を資産に様々な企画を展開

京都府福知山市

福知山の地を治めていた明智光秀が 2020 年に NHK の大河ドラマの主人公に決まり、福知山市では、光秀にちなんださまざまなイベントを企画するも、新型コロナウイルス感染症の影響により、すべて白紙に。緊急事態宣言下、ステイホームでも可能な「本能寺の変 原因説 50 総選挙」を行い、投票者の中から、光秀と市役所からの「謀反のお知らせハガキ」が届く仕組みの「本能寺の変プロジェクト」を企画。これにとどまらず、2021 年には「光秀ピクトグラム」を、2022 年には「# 福知山城チャレンジ」プロジェクトを、そして 2022 年から現在も続く「福知山の変」プロジェクトなど、明智光秀を資産にさまざまなプロジェクトを展開しています。こうした企画を通して全国に情報発信する取り組みについてお話しします。